大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F117310105497	設置等組織名	情報工学部
大学名	金沢学院大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	石川	事業計画名	金沢学院大学　情報工学部の新設

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	2-①令和５年９月～ 情報工学部開設のため2号館改修（4階） 2-②令和５年１２月 情報工学部のため2号館４階改修（AC+LAN敷設,内装） 2-③令和６年２月 情報工学部のため2号館および2号館B棟工事等（LAN,分電盤,無線延伸） 2-④令和６年３月 情報工学部のため２号館備品等設置 2後-⑤~~令和５年９月～令和７年３月 情報工学部棟建設のための新校舎設計~~（R7.3.24承認）	2-①令和５年９月～ 情報工学部開設のため2号館改修（4階） 2-②令和５年１２月 情報工学部のため2号館４階改修（AC+LAN敷設,内装） 2-③令和６年２月 情報工学部のため2号館および2号館B棟工事等（LAN,分電盤,無線延伸） 2-④令和６年３月 情報工学部のため２号館備品等設置	令和5年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	2後-⑤~~令和５年９月～令和７年３月 情報工学部棟建設のための新校舎設計~~（R7.3.24承認） 3-①令和６年４月 情報工学部生対象「令和６年度新入生入学時調査」の実施 3-②令和６年７月 情報工学部生対象「令和６年度前期末調査」の実施 3-③令和６年８月 情報工学部について産業界と意見交換の実施 3-④令和６年９月 情報工学部企画戦略会議（学内）の実施 3-⑤令和７年１月 情報工学部生対象「令和６年度学年末調査」の実施 3-⑥令和７年２月 情報工学部について自治体と意見交換の実施	3-①令和６年４月 情報工学部生対象「令和６年度新入生入学時調査」の実施 3-②令和６年７月 情報工学部生対象「令和６年度前期末調査」の実施 3-③令和６年８月 情報工学部について産業界と意見交換の実施 3-④令和６年９月 情報工学部企画戦略会議（学内）の実施 3-⑤令和７年１月 情報工学部生対象「令和６年度学年末調査」の実施 3-⑥令和７年２月 情報工学部について自治体と意見交換の実施	令和6年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	3-⑦令和７年４月 情報工学部生対象「令和７年度新入生入学時調査」の実施 2後-~~⑤令和７年５月～令和７年１２月 情報工学部棟建設のための新校舎設計~~(R8.3.19承認) 3-⑧令和７年７月 情報工学部生対象「令和７年度前期末調査」の実施 3-⑨令和７年８月 情報工学部について産業界と意見交換の実施 3-⑩令和７年９月 情報工学部企画戦略会議（学内）の実施 3-⑪令和７年１０月 情報工学部のための高校生進学ニーズの動向調査（北陸地域対象） 2後-~~⑥令和７年１０月 情報工学部のため新校舎着工（新校舎建築工事（初年度）の実施）~~（R7.3.24承認） 3-⑫令和８年１月 情報工学部生対象「令和７年度学年末調査」の実施 2後-~~⑦令和８年１月 情報工学部のための新校舎竣工（新校舎建築工事（初年度）の実施）~~（R8.3.19承認） 3-⑬令和８年２月 情報工学部について自治体と意見交換の実施	3-⑦令和７年４月 情報工学部生対象「令和７年度新入生入学時調査」の実施 2後-⑤令和７年５月～令和８年７月　情報工学部棟建設のための新校舎設計(R8.3.19承認) 3-⑧令和７年７月 情報工学部生対象「令和７年度前期末調査」の実施 3-⑨令和７年８月 情報工学部について産業界と意見交換の実施 3-⑩令和７年９月 情報工学部企画戦略会議（学内）の実施 3-⑪令和７年１０月 情報工学部のための高校生進学ニーズの動向調査（北陸地域対象） 3-⑫令和８年１月 情報工学部生対象「令和７年度学年末調査」の実施 3-⑬令和８年２月 情報工学部について自治体と意見交換の実施	令和7年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	2後-⑤令和７年５月～令和８年７月　情報工学部棟建設のための新校舎設計（R8.3.19承認） 3-⑭令和８年４月 情報工学部生対象「令和８年度新入生入学時調査」の実施 2後-~~⑦令和８年４月　（新校舎建築工事（2年目）の実施）~~（R8.3.19承認） 3-⑮令和８年７月 情報工学部生対象「令和８年度前期末調査」の実施 3-⑯令和８年８月 情報工学部について産業界と意見交換の実施 2後-⑥令和８年８月 情報工学部のための新校舎着工（新校舎建築工事（初年度）の実施）（R8.3.19承認） 3-⑰令和８年９月 情報工学部企画戦略会議（学内）の実施 3-⑱令和９年１月 情報工学部生対象「令和８年度学年末調査」の実施 3-⑲令和９年２月 情報工学部について自治体と意見交換の実施 2後-~~⑧令和９年２月 情報工学部のため新校舎竣工~~（R7.3.24承認） 2後-~~⑧令和９年３月 情報工学部のための新校舎竣工及び備品等設置~~（R8.3.19承認）		令和8年度自己評価　リストから選択してください。
令和9年度	2後-~~⑨令和９年４月 情報工学部のための新校舎供用開始~~（R8.3.19承認） 2後-⑦令和９年４月　（新校舎建築工事（2年目）の実施）（R8.3.19承認） 3-⑳令和９年４月 情報工学部生対象「令和９年度新入生入学時調査」の実施 3-㉑令和９年７月 情報工学部生対象「令和９年度前期末調査」の実施 3-㉒令和９年８月 情報工学部について産業界と意見交換の実施 3-㉓令和９年９月 情報工学部企画戦略会議（学内）の実施 3-㉔令和１０年１月 情報工学部生対象「令和９年度学年末調査」の実施 3-㉕令和１０年２月 情報工学部について自治体と意見交換の実施 3-~~㉕令和１０年２月 情報工学部主催のデジタル人材育成についてのシンポジウム開催~~（R8.3.19承認） 2後-⑧令和１０年３月 情報工学部のための新校舎竣工及び備品等設置（R8.3.19承認） 3-㉖令和１０年３月 情報工学部主催のデジタル人材育成についてのシンポジウム開催（R8.3.19承認）		令和9年度自己評価　リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価　リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価　リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価　リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価　リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価　リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和4年度末に認可申請	令和5年3月15日認可申請書提出 令和5年9月4日設置認可 令和5年9月25日収容定員変更関係学則変更届出	
定員減又は 学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	金沢学院大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
右の○の要件を満たしていない		○												

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）
②	初年度の入学生は定員100名に対して36名に留まったが、令和6年度以降、高校訪問、DXハイスクールとの連携、オープンキャンパス等を継続的に実施した結果、令和7年度の入学生は55名、令和8年度入学者選抜における入学者は58名となり、微増ではあるが改善傾向が見られる。しかし、定員100名にはなお遠しておらず、志願者層のさらなる拡大と、情報工学部の教育内容・将来性の一層の周知が引き続き課題である。 令和8年度においては、これまでの高校訪問やDXハイスクールとの連携を継続するとともに、3年生となった在学生の取組をより積極的に活用する。特に、在学生が出身高校を中心に、自身の学修経験、大学生活、卒業研究に向けた活動等を伝えることで、高校生にとって身近なロールモデルを示し、情報工学部で学ぶ具体的なイメージを広げていく。また、現時点では卒業生がいないため、就職実績を広報材料として活用することはできないが、その代替として、在学生の研究会や学会等での研究発表、卒業研究に向けた活動、地域企業との接点づくり等を積極的に周知し、学びの成果や将来の進路イメージを可視化していく。さらに、急速に進化している生成AI等のAI技術を学生募集活動に活用し、生成AIの仕組みの解説や、AIグラス等の新しい情報機器を用いた体験的な説明、高校生・高校教員を対象としたDX講座を通じて、情報工学分野の魅力と将来性を分かりやすく伝える。これらの取組を通じて、令和8年度も定員確保に向けた学生募集活動を継続的に強化する。

④については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件④について	現在の状況
④文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部情報工学科では、学生の自主的かつ主体的なキャリア形成力を養成するため、体験型のキャリア教育科目として「就業体験（インターンシップ等）」を配置する。これは、企業等において一定期間、実際の業務を体験し仕事や職業に対する理解を深め、自己の職業適性や職業選択について深く考察し社会人として活躍していく基盤を形成する。特色として、本学の位置する北陸における自治体・企業にて就業体験ができる機会を設ける。本科目を通じて、地域が抱える課題について認識を深め、さらに組織の一員として課題に取り組む体験から地域産業に貢献するために求められる能力や人間性についての理解を深め、自己の成長に主体的に取り組むことを目指す。科目担当者と就職支援部が責任窓口になり、実習先組織と実習期間中および事前・事後の連携（「事前研修」（意識付けおよび実習先組織についての理解）、「業務日報」等の指導・評価等）を実施する。既存学部の令和4年度の実績において102組織の実習先を確保している。今後、情報工学部と目的が適合する北陸地域の自治体、企業等をさらに抽出・開拓するとともに、IT系企業や企業等の情報システム部門を中心として、連携開拓を継続的に行なう計画である。	令和7年度は、情報工学部情報工学科が開設3年目を迎え、3年生が在籍する段階となったことから、学生の進路意識を高め、企業・行政機関等との接点を増やす取組を進めた。現時点では、就職指導そのものを主目的とする単位化された科目は設定していないが、合同企業説明会への積極的な参加を学生に呼び掛けるとともに、3年生配当科目の講義の中で、適宜、就職や将来の進路を意識した指導を行っている。 また、ICT関係企業等による業界研究の機会を設け、株式会社高志インテック、警察庁、トータルアメニティ株式会社、株式会社ソフト、株式会社中央設計技術研究所など、情報通信、システム開発、公共分野、設計・技術支援等に関わる企業・機関から、業界の動向、業務内容、情報系人材に求められる知識・技能等について学生に説明いただいた。これにより、学生がAI、データサイエンス、プログラミング、情報システム等の学修内容と、地域企業・行政機関等における実務とのつながりを理解する機会となった。	申請時の計画では、企業や自治体と連携した科目、PBL型学修、就業体験等を通して、学生が地域課題や情報系人材に求められる実践的能力を身に付けることを想定していた。一方で、令和7年度時点では学生進行上、3年生が在籍する段階であり、卒業研究や就業体験に向けた準備を本格化させる時期にあるため、企業や自治体と連携した単位化科目としてのPBL型学修の実施については、今後さらに具体化する必要がある。 このため、令和8年度以降は、令和7年度に実施した株式会社高志インテック、警察庁、トータルアメニティ株式会社、株式会社ソフト、株式会社中央設計技術研究所などによる業界研究や、合同企業説明会への参加促進、3年生科目における進路意識を高める指導を継続しながら、企業連携型学修や就業体験へ接続できる体制を整備する。特に、AI、データサイエンス、プログラミング、情報システム等の知識を活用できる企業・行政機関等の課題を把握し、卒業研究、PBL型学修、就業体験等に発展させることを目指す。 あわせて、就職支援部及び関係教員との連携を強化し、学生が地域企業、ICT業界、公共分野等の実態を理解し、将来の進路形成につなげられるよう支援する。今後は、業界研究にとどまらず、企業・行政機関等から提示された実務上の課題を授業内演習、卒業研究、PBL型学修に取り入れることができるよう、連携内容、実施時期、評価方法等を具体化していく。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
□ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部は本学にとって初の理系学部となるため、入学者選抜における科目については数学と英語、そして論理的思考に重きをおく理科科目として物理と化学を重視する他、その出題範囲についても数Ⅱまでを含めるなど、競合校とは一線を画した試験科目とする計画である。そして、女子学生の確保のため学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜に10名程度の女子枠を設定する。また、情報工学部の女子学生の学習をサポート、ロールモデルとなる女性教員を組織に加える予定である。さらに継続的な理系人材の育成を目的に、周辺地域の中学校・高等学校を主な対象として、情報工学部教員による出張授業や、学生によるワークショップ・研究成果発表等を実施することを計画している。特に本学附属中学校および附属高等学校とは連携を密にした学習・交流に取り組む計画である。社会人の受け入れについては、専願制の社会人推薦枠を設ける他、石川県商工労働部と協働でリカレント教育プログラム開発を進めており、今後の検討材料として、プログラムの一部試験実施を令和5年度に実施する予定としている。	令和7年度は、多様な入学者の確保に向けて、入学者選抜、女子学生の確保、初等中等教育段階の学校との連携、社会人学生の受入れの各観点から取組を進めた。入学者選抜における科目の見直しについては、情報工学部での学修に必要となる基礎学力を確認しつつ、多様な受験者が志願しやすい選抜方法となるよう、入試区分や選抜科目の在り方について継続的に点検を行った。 女子学生の確保に向けては、オープンキャンパスや高校訪問等において、AI、データサイエンス、DX、プログラミング等の分野が、性別を問わず幅広い進路につながることを説明した。また、情報工学を単なるプログラミング技術としてではなく、地域課題の解決、教育、医療、観光、防災、生活支援等に関わる分野として紹介し、女子生徒にも学びの意義が伝わるよう努めた。 地域の初等中等教育段階の学校との連携については、高校訪問、出張授業、DXハイスクールとの連携、高校生・高校教員向けDX講座等を継続した。加えて、松南小学校においてDX授業を実施するなど、初等教育段階を含めた情報・AI教育への関心喚起にも取り組んだ。生成AIの仕組みを分かりやすく解説するなど、急速に進化するAI技術を児童・生徒及び教員に身近に感じてもらう機会を設けた。 社会人学生の受入強化に向けては、リカレント教育・リスキリングへの社会的需要が高まっていることを踏まえ、AI、データサイエンス、DXに関する学びが社会人の学び直しにも有効であることを意識して広報を行った。また、人工知能学会会長である栗原聡教授を招いたAI関連の公開講座を実施し、高校生、大学生、社会人、一般市民を含む幅広い層に対して、情報工学分野の重要性と学び直しの意義を発信した。	多様な入学者の確保に向けた取組は継続しているが、情報工学部は開設後間もない学部であり、学部の教育内容や卒業後の進路について、高校生、保護者、高校教員、社会人にさらに具体的に伝えていく必要がある。入学者選抜における科目の見直しについては、情報工学部での学修に必要な基礎学力を確保しつつ、多様な受験者にとって受験しやすい制度となるよう、志願者数、合格者数、入学者数、入学後の学修状況等を踏まえ、継続的に検討する。 女子学生の確保については、情報工学分野に対する固定的なイメージにより、女子生徒が進路選択の段階で志願をためらう可能性があるため、その点、令和8年度以降は、AI、データサイエンス、DXが社会の幅広い分野で活用されていることを一層分かりやすく示し、女子生徒にも身近な進路として情報工学を捉えてもらえるよう、オープンキャンパス、出張授業、高校訪問等での説明内容を改善する。 地域の初等中等教育段階の学校との連携については、高校だけでなく、松南小学校でのDX授業のように、小学校・中学校を含めた早い段階から、情報、AI、DXに触れる機会を設けることが重要である。今後も、DXハイスクールとの連携、高校生・高校教員向けDX講座、出張授業、小学校でのDX授業等を継続し、生成AI等を活用した体験的な学びを提供することで、地域における情報教育の裾野を広げる。さらに令和8年度は、販売が始まったAIグラス等の新しい情報機器も活用し、高校生や高校教員が最新のAI技術を体験的に理解できる機会を設ける予定である。 社会人学生の受入れについては、現時点では社会人学生の受入実績や具体的な制度設計に課題が残る。今後は、AI、データサイエンス、DXに関するリカレント教育・リスキリング需要を踏まえ、公開講座、地域向け講座、社会人にも参加しやすい学習機会等を通じて、社会人層への情報発信を強化する。栗原聡教授によるAI関連の公開講座のような取組を継続・発展させ、将来的な社会人学生の受入れにつながる基盤づくりを進める。

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	金沢学院大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和7年度	実施状況報告書留意事項	○石川県能登半島地震による影響は考慮されるものの、R7 年度収容定員充足率が0.43（情報工学部情報工学科）と著しく低くなっている。より効果的な改善策を新たに講じる等、収容定員の更なる充足に努めること。	令和7年度においても、本学情報工学部における志願者及び入学者の増加を図るため、年度当初より学生募集活動を継続的に実施した。オープンキャンパスについては、令和7年度は計11回実施し、体験授業、学部独自の教育内容、学生生活、卒業後の進路等について、高校生及び保護者に分かりやすく説明する機会を設けた。また、昨年度に引き続き、保護者説明会、入試対策講座、授業紹介、個別相談等を実施し、情報工学部の教育内容や入学後の学修イメージを具体的に伝える取組を継続した。 その結果、令和8年度入学者選抜における志願者数は205名となり、昨年度の194名から微増した。また、入学者数についても58名となり、令和7年度の55名から微増した。依然として入学定員の充足に向けては継続的な改善が必要であるが、これまでの募集活動の継続により、志願者数及び入学者数はいずれも増加傾向を示している。 高校訪問については、今年度の訪問回数の集計は行っていないものの、一昨年度及び昨年度に引き続き、入試広報部職員と情報工学部教員が連携し、石川県を中心に、富山県、福井県、新潟県、長野県等の高等学校への訪問を継続した。高校教員に対して、本学情報工学部が北信越地域における数少ない情報系・理工系学部を有する私立大学であること、AI、データサイエンス、DX、プログラミング等の成長分野を学べること、高校情報及び中学・高校数学の教員免許取得が可能であることなどを説明し、新学部としての認知度向上に努めた。 また、高等学校DX加速化推進事業、いわゆるDXハイスクールに採択された高校や、本学への入学実績のある高校を中心に、「情報Ⅱ」や「総合的な探究の時間」等に関する高大連携の可能性について説明を行い、DX教育、情報教育、探究学習の支援を通じて、高校との結びつきを強める取組を継続した。これにより、オープンキャンパス等の本学主催行事への参加を促すとともに、生徒個別の進学相談に柔軟に対応できる関係づくりを進めている。 さらに、より広く情報工学部の教育研究内容を社会に発信するため、人工知能分野の第一線で活躍されている人工知能学会会長の栗原聡教授を非常勤講師として招へいした。加えて、情報工学、人工知能、データサイエンス等への関心を地域全体に広げることを目的として、一般、大学生、高校生、中学生を対象とした公開講座を金沢厚生年金会館において実施した。これにより、高校生や保護者のみならず、地域住民や中学生にも情報工学部の教育研究内容を周知し、将来的な志願者層の拡大につながる広報活動を行った。 このほか、大学パンフレットやホームページの見直し、オープンキャンパスでの説明内容の改善、情報工学部の学びを分かりやすく伝える広報資料の整備等を継続している。今後も、情報工学部の特色であるAI、データサイエンス、DX、教員養成、地域連携等を効果的に発信し、競合校との差別化を図るとともに、志願者数及び入学者数のさらなる増加に向けて、学生募集活動を継続的に改善していく。

大学名	金沢学院大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	情報工学部情報工学科（工学関係）

大区分	小区分	項目	単位	年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
				改組状況	選定・認可	開設			完成年度														
	事業計画に定める定員	入学定員	人		100	100	100																
		編入学定員	人		-	-	-																
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	100	100	100																
		入学者数	人	-	36	55	58																
		女子学生数	人	-	8	3	14																
		社会人学生数	人	-	0	0	0																
		留学生数	人	-	0	1	0																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	100	100	100																
		入学者数(B)	人	-	36	55	58																
		女子学生数	人	-	8	3	14																
		社会人学生数	人	-	0	0	0																
		留学生数	人	-	0	1	0																
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	0.36	0.55	0.58																
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	100	200	300																
		編入学定員	人	-	-	-	-																
		在籍者数(D)	人	-	36	86	140																
		編入学者数	人	-	-	-	-																
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	0.36	0.43	0.47																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	3	4	6																
		授業科目の単位数	単位	-	36	41	75																

大学名	金沢学院大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	100	100	100															
		入学者数	人	-	36	55	58															
		女子学生数	人	-	8	3	14															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	1	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	100	100	100															
		入学者数(B)	人	-	36	55	58															
		女子学生数	人	-	8	3	14															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	1	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	0.36	0.55	0.58															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	100	200	300															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	36	86	140															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	0.36	0.43	0.47															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	3	4	6															
		授業科目の単位数	単位	-	36	41	75															

大学名	金沢学院大学

３.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	810	910	910	910															
		入学者数	人	812	775	829	979															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	810	910	910	910															
		入学者数(B)	人	812	775	829	979															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	0.85	0.91	1.08															
	収容定員等	収容定員(C)	人	3159	3370	3520	3630															
		編入学定員	人	85	90	90	90															
		在籍者数(D)	人	3375	3313	3286	3364															
		編入学者数	人	37	42	41	32															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.07	0.98	0.93	0.93															

４.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	選定	開設			完成年度									
項目	単位																		
外部資金獲得額	千円	54,661	55,384	38,239	135,238	58,346	39,180	40,353	37,361										

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金	千円	56,130
本事業による助成金の額(F)	千円	1,040,000
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	82,130

特記事項